



北海道看護協会図書室の利用者教育

中野 禎子

I. はじめに

北海道看護協会(以下、協会)は、北海道内の保健婦・士、助産婦、看護婦・士の免許取得者が会員(1999年度31,617人)の専門職能団体で、継続教育と広報活動、看護婦の人材確保等が主な事業である。

協会図書室(以下、図書室)が活動を開始したのは、1978年6月から1977年の北海道看護研修会館設立から1年後のことである。図書室は面積92㎡、閲覧席数20席で、1999年度の収書状況は蔵書9,640冊、継続受入雑誌35種、利用者は、4,303人である。(表1) 日常業務は司書3人(専任1、兼務1、臨職1)がその任にあっている。

表1. 北海道看護協会図書室活動状況

年度	入室者数 (人)	貸出冊数 図書 (冊) 雑誌 (冊)	複写利 用來室 (人)	文献複写申込 受付 (件)	依頼 (件)	文献検索 照会事項 (件)
1996	2,803	1,195 383	1,053	265	156	99
1997	3,296	833 291	1,428	328	314	93
1998	3,408	825 204	1,590	532	377	46
1999	4,303	930 256	2,019	729	337	57

1987年から、図書室の活動を充実するために北海道病院ライブラリー研究会等のネットワークに加入した。その後ネットワークによる相互協力体制は図書室の活動を支える基盤となっ

ている。

利用者教育は、文献複写サービスや、協会主催の研修会で「看護文献の検索」の講義を通して行っている。

そこで、看護職をとりまく現状にもふれながら図書室の利用者教育について報告する。

II. 北海道の看護職をとりまく現状

少子高齢社会への進行、介護保険法施行等で看護界の動きの変化とともに看護の文献情報量は増加している。それにともない最近では看護研究が盛んに取り組みられるようになり、看護文献に対するニーズは高くなる一方である。そのような中で看護文献を検索しようとする協会会員(以下、会員)への支援が重要になってきている。

しかし、現実には北海道の広大な地域に会員が点在する地理的条件や冬期間の気象条件の制約により、利用の機会に恵まれない会員も少なくない。

また最近では、パソコンの普及により会員にもインターネットの利用者が増加しているが、インターネットへの理解不足と情報の氾濫から看護分野の検索がインターネットだけでできると思い込んでいる人も見受けられる。

さらに、看護関係の二次資料が身近にないこと、その存在や使い方を知らない人、文献検索を一度も経験したことがない人が多いことも事実である。

このように、複雑な現状を一層深刻にしている背景として次のことが考えられる。

- (1) 看護職の利用に配慮した図書室を設置している病院・施設が少ない。
- (2) 看護学校に整備された図書室が少なく、司書も配置されているところが少ない。
- (3) 基礎教育の場で積極的な文献検索の指導に取り組んでいるところが少なく、卒業生への対応も遅れている。

特に(1)については、サービスの対象を医師だけではなく、病院等で最も職員数の多い看護職への開放をぜひ望みたい。医師の利用を主体とした病院等の図書室を看護職にも利用してもらうためには、司書の配置、看護関係資料の収集・整理、利用教育の徹底を図らなければならない。各病院等の事情で問題の解決は一様ではないだろうが、図書室担当者には、改善に向けての惜しみない努力を期待したいものである。

Ⅲ. 利用者教育

1. 文献複写サービス

図書室を利用する機会に恵まれない会員や図書室を設置していない病院・施設に所属する会員、いずれも道内の地方在住者を対象に、1987年から郵送による文献複写サービスを開始した。

当初は申込用紙の不統一から会員に文献入手手続きに必要な書誌事項の理解が得られず、事務処理の煩雑さを解消することができなかった。そこで、1998年度には申込方法、申込用紙等の整備とともに記入例を会員に周知し、スムーズな処理を確保することで利便を図った。

また、文献郵送時には必ず申込方法、用紙記入例、所蔵雑誌一覧を同封し、次回の複写申込に支障がないよう配慮している。最近では、書誌事項の不備も減少傾向にあり、指導が徐々に浸透してきた。

なお、文献複写サービス実施にあたり、所蔵雑誌以外の文献入手・照会については、北海道病院ライブラリー研究会、看護図書館協議会、病院図書室研究会のネットワークによる相互協力体制が大きき力になっている。

2. 利用案内と文献リスト

協会主催の研修会は、1999年度には38回開催され、研修会受講生にはA4版の利用案内を配布している。

また、協会を会場として開催している北海道主催の看護教員養成講習会では、研修期間が8カ月と長期にわたり利用の機会も多くなるため、受講生を3グループに分けて約1時間のオリエンテーションを行っている。

その他に、はじめて来室した会員にも利用案内を必ず渡し利用手続き等の説明を行い、きめ細かな対応につなげている。

1996年度から、協会主催の研修会のうち、5日間コース研修会の受講生を対象に、研修内容に関連した文献の紹介と、検索の機会をつくることを目的とした文献リストの配布に取り組んでいる。(図1) 1999年度の文献リスト配布は12回となっている。

3. 「看護文献の検索」講義

1993年度からはほぼ毎年、「看護文献の検索」の講義を受け持っている。1999年度の講義は、協会主催研修会が3回、北海道主催研修会が2回であった。

講義は3時間で、資料説明、ビデオ上映、演習に分けて実施している。(表2)

表2. 講義内容の時間配分

内 容	時 間
資料説明 (OHPまたはスライド併用)	90分
休 憩	10分
ビデオ「看護と図書館 (上)」上映	30分
演習—最新看護索引を使って—	50分

資料説明は、〈図書資料の活用〉〈二次資料とは〉〈検索の実際〉〈文献の入手—図書室の利用—〉の順に進めている。

図書資料の活用では必ず「読む」こと、「調べる」ことの違いを述べている。このことが明確でないと二次資料の理解に結びつかないから

平成11年10月26日
北海道看護協会 図書室

『ターミナルケア』に関する文献リスト

	雑誌名	巻	号	年	ページ	特集・論題
1	Expert Nurse	13	9	1997	23-51	<特集>がん患者の“鎮静”をどう進めるかー “tyr-tyon”をty-にしないで ・石原 光恵 他:「もう終わりにしたい」 -「精神的」苦痛を訴える患者の持続鎮静 を始めた医療者の葛藤 ・森田 達也 他:ターミナル期にあるがん患者 の症状緩和のための鎮静
2	がん看護	1	1	1996	6-55	<特集>QOLとがん看護 ・渡辺 孝子:QOL 概念導入の成果と展望 ・中根 允文 他:QOLの枠組みー日本に おけるQOL 評価の現状とWHO/QOL

図1. 文献リストの一例

である。どのようにしたらその存在と必要性について、理解してもらえるのか試行錯誤の結果、最近では身近な例を示し次のような説明を加えることにしている。「患者さんの血圧を測定する時に使う道具として血圧計があります。文献を探す時にも欠かすことができない大事な道具があります。それが、二次資料です。血圧計という道具なしに血圧測定ができないのと同じように、文献を検索する時にも二次資料という道具なしにはできないのです。」

さらに、書誌事項の重要性もくり返し述べるようにしている。これも例を示し、次のように説明している。「書誌事項は、人間で言えば名刺に載せる事柄です。勤務先、役職名、氏名、住所、電話番号など、個人を特定する時に必要なものです。文献を表す時に必要な事柄、その論文を特定するものが書誌事項です。雑誌名、著者名、論題、巻、号、ページ数、発行年がそれにあたります。」

演習では、1人1冊ずつ『最新看護索引』が使えるよう配慮している。ただし、受講生が200人近くの研修会もあるので、その時は2人

で1冊を使うようにしている。

まず、検索テーマの設定を行ってもらう。受講生それぞれに特定のテーマがある場合は、それに添ったキーワードを、特になければ、こちらで用意した「申し送り」「褥瘡」等のキーワードを使って、文献記入用紙(図2)に記入してもらう。文献記入用紙は、書誌事項を正しく記録してもらうために使用している。

著者 :	_____
論題 :	_____
_____	_____
_____	_____
雑誌名 :	_____
_____	_____
巻 (Vol.)	号 (No.)
頁 (p.)	~ , 年 月
使用二次資料	
最新看護索引, 日本看護関係文献集	
医中誌 CD-ROM, その他 ()	
北海道看護協会図書室所蔵 有・無	

図2. 文献記入用紙

受講生の多くから、「実際に検索を経験してみると思っていたより簡単にできた。」「関連の文献が沢山みつかり、もっと調べてみたくなった。」「もっと早く検索の方法を教えてほしかった。」等の感想がきかれる。このような感想から検索をする機会や、二次資料を使う機会に恵まれなかったことが会員にとって、文献検索を難しく遠い存在にしていたことが伺われる。

IV. おわりに

前述したように、看護職をとりまく複雑、深刻な状況は、即日解決されることではない。だからより一層、図書室の会員に対する適切かつ継続的な指導・援助が必要だと考える。

今後の利用者教育については、他の図書館等の情報を参考にしながら工夫をかさねてきた

い。

参考文献

- 1) 中野禎子：北海道看護協会図書室の活動. 医学図書館. 1994 ; 41 (2) : 177-178.
- 2) 直江理子, 中野禎子, 中村満枝：北海道における病院図書室研究会活動. 医学図書館. 1990 ; 37 (3) : 148-152.
- 3) 和気たか子：看護文献の探し方. ほすびたるらいぶらりあん. 1998 ; 23 (1) : 5-12.
- 4) 北海道看護協会. 創立50周年記念誌. 1997 ; 181-182.
- 5) 中野禎子：北海道看護協会図書室の活動と地域ネットワーク. 看護と情報. 2000 ; 7, 7-10.